

2024 年度 JOCA-Nara 1 月定例会 議事録

「奈良一刀彫のごとく、大胆かつ繊細にそして美しい活動を追求します。」

日時：1 月 25 日（土）18 時 30 分～20 時 30 分

場所：Zoom 開催

参加者：菊田・荻原・榊井・黒田昌・黒田和・岡崎（ソロモン諸島より中継）

協力隊ナビ参加者（合計 4 名）：近藤様、井出様、大林様、森川

(1) 議題

1. 協力隊ナビ

・協力隊活動報告（バングラデシュ OG による）& 現地での生活について、質疑応答

2. 参加者多く、月次定例会は未実施。

(2) 要旨

1. について

活動報告（荻原さん：バングラデシュ：看護師より）

<参加者>

o：奈良県（東京）5 年目製薬企業。給食参加希望。デング熱ワクチンを現地販売。2026 年 10 月に活動したい

i：奈良県 製薬会社 海外旅行趣味 旅行では見えない景色を見たい。チャレンジ 4 月から

k：兵庫県 20 歳以後に応募できると知って、参加を考えた

m：奈良県 公務員休職参加希望。青少年活動。大学では途上国農村研究

(感想)：自分が考えていないことまで考えて準備されていた。日本と海外とは違う。事前準備が必要で病気になれば足手まといになる。リサーチが必要だとわかった。

<質疑応答>

Q：コミュニティ開発や観光が気になっている。

A：経験年数が多く、大学に行きながらは難しいかもしれない。

Q：一番心配していることについて、周りに日本人がおらず現地の人とのすりあわせが行われていない状態で困った。そのようなことがあるのか。

A：阻害をされている、嫌われているという状態はなかったが、現場のスタッフはどんなことをする日本人が来たのか知らず、お膳立てはないと思った方が良く、自分なりの企画を考えて行動する

Q：日本は結果を出さないといけないと思うと思うが、ボランティアであるし、時間の感覚はもっと間延びしている感じ。仕事で頑張るというより、コミュニティの中で楽しんでくれることを現地の人は望んでいる。

・自分のための人生の経験をさせてもらったと感じている。

・自分が溶け込むこと現地の食べ物を食べ、現地の祭りに参加する。

Q:語学力について

A:英検、TOEIC など募集条件がある。

派遣前に語学研修があり習得していくことができる

Q:行動制限期間について国が制限したのか、JICA が制限したのか

A:国の情勢に対する JICA 判断となっている。ネットワークが普及しているので、連絡は十分になされている。安全については問題ない。病気にならないようにしていく必要がある。

(3) 次回の定例会

日時：2/22（土）18：30～

方法：Zoom（会長が引き続きベトナム出張のため）